

介護老人保健施設オアシス21 認知症ケア委員会

症 例 概 要 入所者：男性 90歳代前半 介護度 3

病名：#1 認知症(ピック病) #2 高血圧症 #3 前立腺肥大症

経過：認知症を抱え孫夫婦と同居していたが、幻覚や活動低下があり、H29年長女宅へ転入。ご家族と生活リズムが合わず、拒否や易怒、大声あり同年ピック病と診断。在宅困難にて、サ高住花ピリカへ入居。認知症の進行があり、R4年転倒打撲後に発熱ありK病院へ搬送。治療終え花ピリカで戻るがケア困難にて当施設へ入所となった。

拒否が強く、暴力や拒食あり、脱水症状あるも点滴抜去、多動で転倒をくりかえし誤嚥性肺炎発症。ご家族と話し合い、ピック病終末期であることを理解いただき、嫌なことや痛いことはない、好きな物を食べていただくという尊厳重視した寄り添いケア方針となった。その後、緩和ケアとなった事で穏やかに笑顔で過ごせる様になった事例。

内 容

令和4年12月初旬、サ高住花びりか入居中転倒、骨折はないが全身の痛みあり独居生活困難のため緊急入所。帰宅要求や強い介護拒否あり、暴力や脱衣、拒食、脱水があり徐々に体力低下が進行していた。

また、同時期に当施設でコロナクラスター発生。全居室感染対策をしている最中に居室で転倒され、頭部裂傷、流血する大けがをされた。拒否が強く傷の手当ても3人がかりで実施するほどであった。痛みが強く更に食事・内服・排泄へのケア拒否が増強。その後、誤嚥性肺炎と尿路感染を発症し病状急変された。

クラスター終息後、すぐにご家族に参加いただきサービス担当者会議を開催。

・担当医はご家族にピック病の終末期及び病状経過を説明をしたところ、ご家族より「痛いことが昔から嫌い。点滴はしなくてもいい。父さんが好きなつけものやコーラーを飲んで父さんらしくいてほしい。」と緩和ケアの方針となった。

・認知症ケア委員会では多種職、他部署が集まり困難事例検討会実施し看護師によるピック病勉強会

を実施。

・ケアマネは入居者さんの几帳面で清潔好きな性格・生活暦を参照し、右耳からの声掛け・統一した認知症ケアプランを作成。

・介護はご本人が好きな参加型行事やカラオケを企画し生きがいをづくりを実施。

・栄養課はご家族の面会の機会を持ち、好きな物を食べていただけるよう差し入れの機会を多くもった。

・リハビリ職員はミキサー食から刻み食事へ戻し美味しく自分で食べていただけるよう機能訓練を実施。

・ご家族は誕生日プレゼントにももひきをプレゼントし、久々に孫やひ孫との面会ができ、「気をつけれよ」とご家族を気遣う姿もみられ、長女さんは感激の涙でした。

この寄り添いケアにより、行事の際に「北海本唄」を自然に披露いただき、満面の笑顔があふれ穏やかに介護介入が出来ている。

この症例では、認知症の特徴を理解し、認知症の時期に応じたケアを統一して行うことで、その人らしい穏やかな時間を過ごしていただけた経験をさせていただいた。